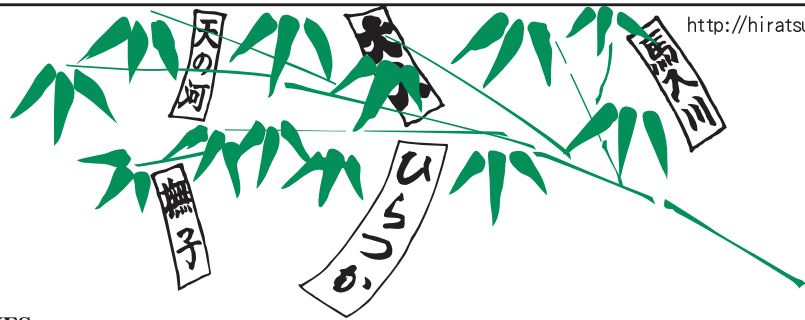




2013~2014年度 国際ロータリーテーマ
ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES
 「ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を」



<http://hiratsuka-rotary.jp>

HIRATSUKA R.C. WEEKLY

- 会長 牧野國雄 ●副会長 常盤卓嗣 ●幹事 清水 裕 ●会報委員長 青山紀美代 (2013~2014年度) E-mail:hiraturc@ma.scn-net.ne.jp
- 例会日 毎週木曜日 12:15~13:30 ●会場 グランドホテル神奈中 平塚2F ●事務局 平塚市松風町2-10 平塚商工会議所内
- 四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

第2925回例会 2013年12月26日 グランドホテル神奈中 週報第2925号

本日の卓話者ご紹介

平塚博物館 館長
 澤村 泰彦 様



卓話

「地域博物館の仕事」

平塚博物館 館長 澤村 泰彦

今回はご指名に預かり光栄に存じます。平塚市博物館を、ふだんお見せしない裏側も含めてご紹介し、地域に密着して活動する考え方などを述べさせていただきます。

さて、平塚市博物館においでいただくと、エントランス右の壁に扉が並び、一見コインロッカーのようですが、扉を開くと、中には歴史、考古、民俗、生物、地質、天文という、当博物館が扱う資料が何かしら隠されていて、扉の裏にその物の説明が書かれています。これはそういう仕掛けのある展示なのです。

続くコーナーでも、川の模型の底に、横から覗き込むと小さなアユやウナギ、漁の仕掛けが見えたり、引き出しの中に古文書があったりするのですが、これなどはもう気づかずに通り過ぎてしまう方が多く、「不親切」と叱られてしまうこともあります。たしかに、お店だったら、ありえないことでしょう。

けれども、私たちはここに「何かを探す」「働きかける」

というふたつの行為を学んでいただきたいという願いをこめています。なぜなら、この二つこそ、博物館的なものの見方の基本だからです。

平塚市博物館は、開館から37年を経て、集めた品の数は17万点を越え、5つの収蔵庫はどれも満杯になってしまいました。そこには国宝のような宝物はありません。むしろ人によっては「そこらにあるもの」とごらんになるかもしれません。

これは結果としてでなく、開館以来の方針で、そうした資料を収集してきたのです。平塚市博物館は、時間と空間を含め総合的に地域を示すという目的で、身近な品々に面白さを発見し、収集してきました。

展示物を例にすると、浜に打ち上げられた漂着物は人によっては「ごみ」に見えるでしょう。しかしそこに混じる木や草の実を運んだ川の上流の自然を知らせ、お盆の馬などは人の生活、風習を物語ります。第4収蔵庫に収める民具たちは、寄贈いただいたころには「不要になった道具」でしたが、数十年を経たいま、懐かしい、けれどももう手に入らない貴重な品物になっています。

時間の経過や、見つめる角度が変わることで「そこらにあるもの」が意味を持ち、輝き始めるのです。専門スタッフである学芸員は、これらを見通して資料を収集し、調査研究します。彼らの目には、ありふれた日常の景色の中にも、光を放つ物たちがキラキラと映じています。

そんな目を共有したい、というのが、はじめの展示の仕掛けの意図なのです。

私は、地域の博物館を、しばしば「家族アルバム」に例えます。家族の写真アルバムは、よその家の方にとっては、あまり用のない物かも知れません。でも、家族にとっては、国宝に負けず大切な品ではないでしょうか。

平塚市博物館は、地域のための「家族アルバム」でありたいと願っています。いつ、どんな場所で、どんなことがあった、そうした状況を含めて家族を表現するアル

<出席報告>

本日11月26日	会員数 63名	対象者 58名	出席者 37(33)名	出席率 59.68%			
前々回12月12日	会員数 63名	対象者 58名	出席者 47(42)名	出席率 75.81%	MUP 5名	計 52名	修正率 83.87%

バム、総合的な見地から地域を示す物（博物館資料）を集め、保存・展示するのが使命と考えています。そうして、地域の方が見たくなった時（どんな方にもいつかその瞬間は訪れます）、提供できるようお待ちしております。

卓話者プロフィール

さわむらやすひこ
澤村泰彦様

- ◆昭和34年（1959）5月24日生まれ（平塚市明石町出身）
- ◆市立崇善小学校、江陽中学校卒、県立平塚江南高校卒
- ◆昭和56年（1981）筑波大学第二学群比較文化学類卒
- ◆同年4月より平塚市博物館学芸担当（当時は学芸係）で天文を担当
プラネタリウムの番組制作、星空の解説、天文資料の収集、展示などをしてきました。
平成25年（今年）4月より館長。
- ◆著書：『博物館の仕事』（岩田書院・2007）共著
- ◆担当した特別展：「里に降りた星たち」平成18年（2006）秋
「星々のみちびき～大雄山参道二十八宿灯」平成23年（2011）など
- ◆特技：寒いおやじギャグを連発する星空解説
天文の学芸員なのに、なぜか漢文をスラスラ読む
- ◆最も心に残った天文現象：ハレー彗星、しし座流星雨
- ◆趣味：自宅（二宮町）庭の雑草を観察すること
温泉に入ること

＜幹事報告＞

◎ R I 2780 地区ローターアクト 第25回地区年次大会のご案内

日時：2/16（日） 14：30～登録
18：00～20：00 懇親会
場所：鈴廣かまぼこの里 鈴の音ホール
締切：1/17（金）
*詳細は事務局まで。

＜メイクアップ＞

5名
桐本美智子・柏手 茂・柳川正人・小野 学
片野之万 会員

＜本日のスマイル＞

24名

＜ゲスト・ビジター＞

1名
澤村泰彦様（卓話者）

＜卓話・行事予定＞

- 1月23日（木） 入会記念卓話 栗野 裕会員
30日（木） → 2/1（土） 第8グループIM
会場：大磯プリンスホテル
- 2月6日（木） 三井不動産㈱商業施設本部
肥田 雅和様
13日（木） プログラム（卓話予定）
20日（木） ㈱湘南ベルマーレ
代表取締役 眞壁 潔様

＜市内例会変更＞

現在ございません。

『ロータリーの友』その②

●『ロータリーの友』はロータリーについての情報誌です。

広報誌ではありませんので、ロータリアン以外の方々を対象にしては編集されていません。もちろんロータリアン以外の方にお読みいただいてもロータリーのことをご理解いただけるように努力はしていますが、基本的にはロータリアンのための機関・情報誌です。世界や日本におけるロータリーの状況やロータリー活動について、日本全国のロータリアンが情報や思いを共有できるような編集と、より身近でより親しまれる編集を心がけています。

「広報」については広報誌『ROTARY 世界と日本』や『ROTARY あなたも新しい風に』を発行したり、電子媒体の特性を生かし、一般からアクセスしやすいホームページ『ロータリージャパン』にロータリアン以外の人々にロータリーを知ってもらうための情報を入れるなどの工夫をしています。

また『友』誌は「内容が難しい」「速報性がない」などのご意見も耳にします。つとめて読みやすく編集し、情報を少しでも早くお届けする努力は怠りませんが、速報性については『ロータリージャパン』を活用していただくための周知に努め、『友』誌とウェブによる情報の共有、住み分けに努めています。

印刷媒体である『ロータリーの友』は速報性には劣りますが、情報を自ら貯え、分析し、読み深めるといった印刷媒体の特長を十分生かした編集を心がけていきたいと思っています。

●『ロータリーの友』はロータリアンの公開討論の場です。

ロータリアンとしての意見や経験談、職業上の知識などを掲載して、ロータリアン同士が堂々と議論し、交流を図る「広場という空間」を提供します。『友』誌の縦組みのページがそれです。この広場にはたくさんのロータリアンがやってきて話し合い、旧交を温め、新しい出会いを喜び…そんなロータリアンたちが行き交うことのできる『友』をイメージしています。